

Senriyama

千里山建築会会報

第23号 2011年3月25日発行

千里山建築会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学環境都市工学部建築学科内

TEL: 06(6368)1121 (代表)

FAX: 06(6368)0093 (建築学科共通)

Contents

新会長就任の挨拶

学内の話題 教室だより
定年退職に際して
総会を終えて 第8回総会報告
懇親会報告

事務局から

会計、事業報告
スプリングフェスティバル懇親会
開催のお知らせ
事務局からのお願い
編集後記

新会長就任の挨拶 // 13期 宮本昌彦



千里山建築会の皆様、会長に推挙頂きました宮本です。私は1983年13期の卒業で、学部では山田幸一先生、大学院では荒木兵一郎先生のゼミでお世話になりました。現在は建築を軸にデザイン全般を教える公立の専門学校で教員をしています。池本会長の時代に副

会長を務め、大学ではCADの非常勤講師を勤めております。この度、千里山建築会と若い人たちとのパイプ役を軸に仕事をすべく推薦を頂き、会長を拝命する運びとなりました。50歳になったことを転機に精一杯勤めますので、よろしくご指導を賜りますようお願いいたします。

さて、世の中はバブル崩壊の傷も癒えないうちにアメリカのリーマンショックを受け、以来、不景気の直中にあります。政府の緊縮財政のあおりを受け建築業界は殊更です。会員の皆様もご苦勞の絶えない日々をお過ごしで

しょう。一方、大学生たちも超氷河期と言われる就職難から社会に夢が持てない状況です。このような状況で会員の皆様方とともに会として何ができるのかを考え、行動することが私の責務と認識しております。

まず、スプリングフェスティバルなどの皆様と集う機会に話題提供を考えます。各省庁が推進する連携話題の動向についてコーディネータを講師に勉強会などはいかがでしょうか。また、会員の皆様による開発や技術の勉強会はどうでしょうか。皆様のご意見を頂戴したいと考えております。

次に、会の次世代を担う学生に向けて行動指針となるキャリアマネジメントの話題提供を考えます。人生の先達としての自身のキャリアマネジメントを後輩に語っていただきたいと考えております。

会員の皆様のご協力を仰ぎ、時代に野心を持って挑戦する会となるよう努力したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

学内の話題

教室だより // 建築学科教育主任 江川直樹

2004年に大学の専任教育職員として着任後、早や7年が経とうとしています。それまで設計業務の傍ら、多くの大学で主に設計製図、設計演習の非常勤を務めていましたが、専任教員としての業務の多さに驚きながらも、気持のよい学生諸君との協働の活動や研究には、設計事務所では経験できない楽しみもたくさんあり、設計の仕事に割く時間のなさを嘆きつつもそれをカバーして余りある良い経験をしています。

学生諸君とは、カンボジアの美しい両棲集落(トンレサップ湖の浸水域にあって、1年の半分が水上集落、残りの半分が空中集落となるカンボン・ブロック村)の実測調査や、2009年の本会報(第21号)に報告記事の掲載された丹波市青垣町佐治を拠点とする活動などを継続しています。その拠点となる関西大学TAFS佐治スタジオ(代表:出町慎、36期)が、地元の推薦をいただき、2010年度の兵庫県人間サイズのまちづくり賞

(活動部門)を受賞し、この2月2日に授賞式があったばかりです。今年から、空き家などを自由に使って様々な活動が行える「佐治倶楽部」も誕生し、会員を募っていますので、ご関心の方々は、ぜひ出町君にお問い合わせください。

学内では、昨年秋に執行部の改編が行われましたが、引き続き河井康人先生が副学部長としての重責をお引き受けいただけることになりました。また、教学主任としてご尽力いただきました梶井健先生に代わり、新たに末包伸吾先生に、同じく教学主任をお引き受けいただくことになりました。

学部改変に伴う環境都市工学部としての新カリキュラムが本年完成年度を迎え、多角的な領域にわたる教員を擁する建築学科としても、その特色を生かしつつ次代に資する2012年度からの修正カリキュラム、新々カリキュラムの編成に向けて議論を重ねてきました。

その他建築学科では、昨年4月から6カ月の在外研究員としてイギリスに赴任されていた藤田勝也先生が帰国され、新たに本年9月から松田敏先生が1年間の在外研究員に出発される予定です。また私も、この4月中旬から3カ月間ですが、在外研究(調査研究員)として、集落調査に出かけることとなっています。

定年退職に際して // 八尾眞太郎



50年に近い私の研究・教育歴の大部分は建築構造学に関するものでありましたが、最後の10年余りは地球環境問題の研究と教育に多くの時間を割きました。

地球環境問題が顕在化する時代を目の当たりに生きた人間として思う所があってこの道に入った次第であります。地球環境問題を打開するためには次の三項目を検討しなければならないと私は考えています。1. 化石燃料使用から再生可能エネルギー利用に切り替えて、持続可能な社会を構築する。2. 地球人口を持続可能な人口で維持する。3. 近代合理主義文明を支えてきた思想性・精神性を根本的に見直す。

項目1.については、各国において多くの努力がなされつつあります。

項目2.については、今後の地球人口は90億超という数字が予測されていますが、人間と自然の共生が持続しうる地球の人口は地球上の植物が炭酸同化作用する容量を考えると現在人口の半分程度であろうと私は考えています。

項目3.については、現状ではほとんど注目されておられません。文明は必ず「物」と「心」の両面から成り立つ

定年延長制度の変更により、本年度まで特別契約教授としてご尽力いただいた八尾眞太郎先生がいよいよこの3月で退職されることとなりました。長い間のご指導、ありがとうございます。先生には、引き続き2011年度も非常勤講師として授業をご担当いただくことになっておりますが、よろしくお願い申し上げます。

あらたに、豊田政弘先生が4月から助教として着任されます。豊田先生は京都大学大学院を出られた後、京都大学次世代開拓研究ユニットの特定助教をされていましたが、着任後は、河井先生、宮崎先生とともに、建築環境工学第一研究室での教育研究活動が決まっています。

建築学科にはゆかりの深い、コンパスと定規をもった伏羲と女媧という二人の神に起因するという〇□の「土俵」の不祥事が世間を揺るがしていますが、いろんな意味で時代が変わろうとしていると理解すべきなのかもしれません。

着任後2回目の教室主任もなんとか終わろうとしています。新年度は、末包先生に教室主任をご担当いただくことの報告を持って、教室だよりを終わらせていただきます。皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

ており、CO2を削減するだけ、つまり「物」を論ずるだけでは決してこの変革は成功しません。

近・現代においては、哲学で言う「理性」に基づく文化即ち自然科学と社会科学の発達が巨大な潮流となって人類社会を覆い尽くしています。その間、「理性」の対極である「非理性」の存在が等閑にされてきました。「非理性」とは感性・情緒性のように表現される人間の精神的本能であって良性と悪性からなり、倫理・道徳・宗教などは良性の本能を範疇とした「非理性」であります。人間の精神が「理性」と「非理性」に分極したのはギリシャ時代であって、この時代から哲学という学問が始まっています。中世に於いては理性と信仰(非理性)の関係がスコラ哲学の中心課題でありました。イブン・ルシュド(1126-1198)によって「理性の真理」と「信仰の真理」即ち「二重真理説」が唱えられたが、近代に至って科学の進歩(理性)が余りにも絶大であったために「非理性」が影にかくれてしまった感があります。近代哲学はこのような趨勢の中で実質的に「理性」のみを哲学の範疇としたために、結果として哲学の不毛、多様化、無力化の時代、更には大衆化社会、没个性的群集心理の社会に至っております。近代哲学は既に破綻していると言えます。「理性」はコンピューターの計算と同じで、限りなく論理的展開が可能であって、結果として限りなく科学は進歩します。しかし、その進歩に関する善悪の判断はできま

せん。それができて、限りなく進歩する科学を人間としてコントロールできるのは「非理性」即ち人間の本能的な精神以外にはありません。

今後の低炭素社会のあるべき姿を模索する為にも人類は20世紀の総括とモダニズムの総括をしておかなければなりません。勿論モダニズム建築もその範疇に入り

ます。

千里山建築会の皆様、21世紀のコルビュジェを千里山建築会の若者から輩出させようではありませんか。晩節を汚すことになるかもしれませんが、私も老骨に鞭打つて今後も努力致します。

総会を終えて

第8回総会報告 // 5期 白崎清一

2010年4月29日(昭和の日)に、関大百周年記念会館で4年に一度の総会が開催されました。建築学科としては今春第40期の卒業生を送り出し、卒業生総数は、4800名余りとなりますが、総会への参加数は、千里山建築会からの通知にも関わらず、横ばい状態です。当日は、出席者72名と欠席通知(委任)148名合せて220名の参加により、会員数4861名の30分の1の163名以上を満了し総会は成立しました。

議長に10期の北野幹夫氏が選出され、まず会長である私の挨拶から始まり、事業報告を16期の谷口欣久氏から、会計報告は会計の鈴木三四郎氏から行われました。会計については、監査役の1期鮫島浩氏、4期足立啓氏、21期安積弘高氏により監査が行われ、代表して足立氏から「適正である」ことが報告されました。以上に付きましては、一括して満場一致で承認を頂きました。

次の議案として会則の変更について提案がありました。まず、学部名が変更されましたので、事務局は都市環境工学部建築学科内に置くという条文に変更します。また、総会への出席者が100名を切る状況にあり、総会の定足数をおよそ100名程度とみなすように現行の「正会員の30分の1以上」から「正会員の(開催年の卒業期数)分の1以上」の出席がなければ開催できないという条文

に変更します。当然当会の事業活動を活発に行うことが前提ですし、同窓会の存続発展のために、総会開催ができない事態は避けなければなりません。これら会則変更2件についても、満場一致で承認を頂きました。

続いて、役員選出について幹事会から推薦指名があり、満場一致で承認を得ました。

第8期役員

会長 宮本昌彦(13期)

副会長 西田眞章(7期) 井上寿也(20期)

青山 悠(38期)

監査役 白崎清一(5期) 芳村隆史(9期)

北野幹夫(10期)

今回の総会には、2002年以来長らく発行を控えていました卒業生名簿を配布することができました。卒業生からのご要望が多く、掲載項目は個人情報保護の観点からご本人の意思を考慮していますので、不十分なところはご了承願います。

在任中の皆様方のご協力に感謝いたします。千里山建築会の事業は、これからやるべきことが沢山あります。新会長へ引き継ぐ形にはなりますが、より活発な事業展開を計画してゆく予定ですので、今後ともよろしく願います。

懇親会報告 // 20期 井上寿也

総会の後は、いよいよ恒例の懇親会です。懇親会には、卒業生ばかりでなく、昔お世話になった懐かしい先生や教室事務の方、会員のご家族、現教職員の方など、本当に多くの方に参加していただきました。

司会を務めて下さった前田由利さんの開会の辞の後、建築学科の近況について、学科主任をされている江川直樹先生よりご報告頂きました。普段、大学に来る機会のない方が多い中、皆が非常に興味深くお話を聞いていたようです。

残念ながら今年度をもって退職される八尾眞太郎先生の乾杯のご発声により、懇親会の幕は開けました。会場内は、ビュッフェ形式の食事をつまみながら、久しぶりに会う旧友や先輩・後輩、あるいは以前お世話になった教職員の方々との歓談で、一気に賑やかな雰囲気包まれ

ました。皆、適当に(?)お酒も入り、本当に楽しそうです。

また、懇親会の途中には、山田稔先生、永井規男先生、浅野幸一郎先生からのお話を聴くこともでき、気分は完全に学生に戻ったような感じです。

そして、最後は全員で逍遙歌を歌い、あっという間に閉会の時間となってしまいました。懇親会が終わった後の皆さんの顔を拝見していると、それなりに満足して頂けたのではないかと感じております。

今回参加して下さいの方々、ご協力して下さいの方々には、心より感謝しております。引き続き、次回の総会、



懇親会も是非、さらに多くの学友の方を連れて、参加して頂きます様、よろしくお祈いします。



最後になりますですが、この会を無事終了させることができたのは、建築学科を卒業され、関大の教員となられた鈴木三四郎先生、河井康人先生、伊藤淳志先生、橋寺知子先生、あるいは関大の職員となられた市原淳さんや印藤祐一さんの献身的な努力によ

るところが大きいと思っております。この紙面を借りまして、皆様にお礼を申し上げたいと思います。



事務局から

会計、事業報告

平成 21 年度会計報告 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
繰越金	¥2,040,293	スプリングフェスティバル	¥30,000
スプリングフェスティバル会費	¥13,000	卒業記念写真代	¥91,000
中途会員入会費	¥64,810	記念写真発送作業アルバイト	¥5,000
利息	¥865	同発送料	¥8,080
新規会員入会費	¥83,000	総会用案内はがき	¥175,000
合計	¥2,201,968	総会等のアルバイト	¥60,000
		PPC ラベル代	¥9,351
		郵送料	¥3,200
		会報、封筒、振込料	¥109,300
		幹事会	¥37,007
		繰越金	¥1,674,030
		合計	¥2,201,968

繰越金明細	
郵便定額貯金	¥1,000,000
郵便普通預金	¥396,107
りそな普通預金	¥276,679
現金	¥1,244
合計	¥1,674,030

平成 21 年度事業報告 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

平成 21 年度に実施した主な事業は次の通りです。

平成 21 年

- 4 月 5 日 第 1 回幹事会開催
- スプリングフェスティバル懇親会開催

10 月 3 日 第 2 回幹事会開催

12 月 5 日 第 3 回幹事会開催

平成 22 年

1 月 23 日 第 4 回幹事会開催

2 月 20 日 会報 22 号発行、会費納入者に送付

3 月 20 日 卒業式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

3 月 27 日 第 5 回幹事会開催

スプリングフェスティバル懇親会開催のお知らせ

今年も例年のようにスプリングフェスティバルに合わせて懇親会を開催いたします。最近来られるメンバーも固定化しつつありますので、しばらく千里山方面を訪れたことのない方などぜひともおいで下さい。お待ちしております。

日時：平成 23 年 4 月 3 日 (日) 14:30~16:30

場所：建築学科会議室 (工学部研究棟 6 階)

会費：1,000 円 (ただし同伴家族は無料)

飲物・スナックなどを用意しておりますので、ご家族、ご友人とお気軽にお立ち寄り下さい。予約は必要ありません。直接会場にお越し下さい。

事務局からのお願い

千里山建築会では学内サーバーにホームページを設けています。イベントのお知らせや会報のカラー版なども掲載しておりますのでぜひご覧下さい。

<http://www.arch.kansai-u.ac.jp/senri2003/index.htm>

同期やゼミで同窓会を開催されたときには、写真などを添えてその時の様子などをお知らせください。会報にどしどし掲載していきたいと思ひます。

住所や勤務先に変更のあった方は、ぜひ新住所・連絡先を千里山建築会までお知らせください。

編集後記

東日本は大変な災害に見舞われました。東日本大震災に見舞われた皆さんにはお悔やみ申し上げます。

今回は津波と原発被害がクローズアップされていますが、建物被害もこれから話題になってきそうです。建築に携わるものとして耐震診断や仮設住宅などかかわっていかなければと阪神淡路の時の既視感をもってテレビの情報を見ているこの頃です。